



### 取扱い説明書

この度は、GTXをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。  
 GTXは最新の機能が多数組み込まれております。この日本語説明書と英文マニュアルをよくお読み頂いた上でお使いください。  
 皆様の声を励みにプログラム式のスピードコントローラーを開発してきた結果、ついに世界をリードする最先端のアンプが完成致しました。  
 GTXはノバックが過去に発売したどの製品よりも小さく、軽いものに仕上げました。そして、より簡単な操作でベスト・セッティングが可能です。

GTXは貴方が必要とするベストセッティングを7つのファクトリーセッティングより選ぶことができます。また、カスタマイズしたデータにし使用する事も可能です。ミニマムブレーキセットは、個々のプログラムで独立して調整が可能です。そして、7つのプログラムは、7つの前進用周波数、5つのミニマムブレーキ用周波数、5つのブレーキ用周波数、7つのミニマムブレーキ用パーセント、5つのデッドバンド（ニュートラル幅）パーセント、2種類のブレーキ、そして7つのドラッグブレーキ用パーセントがそれぞれ独立して設定が可能です。

GTXはノバック・バリアブルスロットルテクノロジーにより2600種類（1300種類の前進、1300種類のブレーキ）の設定が可能です。さらに1から11KHzの選択可能な周波数により、アンプの制御をよりスムーズにする事が出来ました。また、回路を保護するためのサーモプロテクターを内蔵致しました。そして、簡単で便利な外付けパワーワイヤー、キャパシター、オンオフ・スイッチ、インプットハーネスとなっております。

#### スペック

サイズ 28.2×21.8×15.2mm	重量 18g	入力 4-7cell(1.2V/cell)
最大電流（前進/ブレーキ）150A	最大ブレーキ電流 60A	内部抵抗 0.00034Ω
B.E.C.電圧 6.0V (DC)	B.E.C.電流 3.0A	PWM周波数 1-11kHz
パワーワイヤー 14G25.4cm	レーサーワイヤー 22.8cm	ミニマムブレーキ 0~50%

#### ノバック純正オプションパーツ

#1560 パワーキャパシター（純正）	¥400
#978 モーターキャパシター（純正）	¥780
#968 14Gワイヤー 3本セット	¥580

#### ◇付属品

パワーキャパシター（ハンダ済）、0.1μFモーターキャパシター、両面テープ、ショッキードダイオード（36A内蔵）、パワーワイヤー（ハンダ済）、インプットハーネス（接続済）、C型プラスチックマウント、ナイロンストラップ、収縮チューブ、レーサーワイヤー（短）、ノバックステッカー

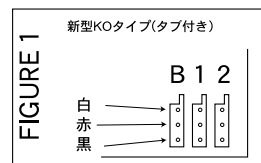
#### 注意：

- 1.アンプ（GTX）は水や水分をきらいませう。また、基盤や外部に改造を加えないでください。故障の原因となります。
- 2.使用時には、必ず送信機側よりスイッチを入れ次にアンプを入れます。切る時は逆にアンプから先に切ります。
- 3.バッテリーは4-7CELLで使用ください。
- 4.極性を間違えない様に配線してください。逆接をするとGTXが壊れます。
- 5.パワーキャパシターは純正の物を必ず取り付けてください。（#1560）
- 6.使用時には必ず送信機からスイッチを入れ、ノーコン防止に気を付けましょう。
- 7.使用時以外は必ずバッテリーを外しておいてください。
- 8.ターミナル部等でのショートを防ぐ為、各配線は収縮チューブで絶縁してください。
- 9.シンナー等でのケース洗浄によりケース表面を侵すことがあります。
- 10.ケース等にクイックグルーを流し込まないでください。

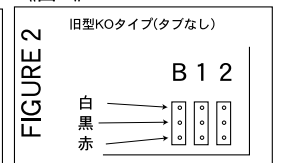
#### STEP.1（レーサーワイヤー）

アンプ(GTX)の受信機ワイヤーが使用するレーサーと同じ極性になっているかご確認ください。  
 もしも、違っている場合は図1~3を参考に正しく極性の順番を入れ替えてください。  
 §もしも、レーサーワイヤー（短）に交換したい場合は上記要領で作業を行ってください。

《図.1》

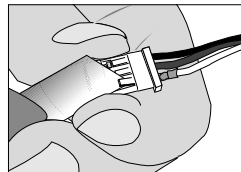
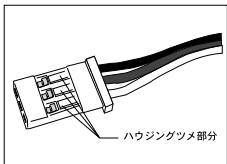


《図.2》

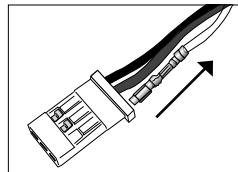


#### 《図.3》 新型サーボワイヤーのコネクター・ピンの交換方法

##### ワイヤーの引き抜き方

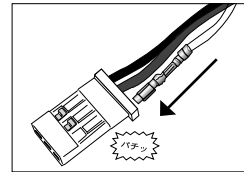


1.引き抜きたいワイヤーのハウジングのツメ部分をカッターの刃などを用いて持ち上げます。  
 (この時、ツメを折らないように注意してください。)



2.ツメ部分を持ち上げたままワイヤーを引き抜きます。

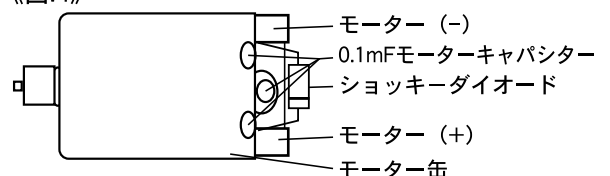
##### ワイヤーの差し込み方



3.上図のようにコネクターをしっかりと差し込みます。  
 (逆接はとも危険です。故障の原因となりますのでよくご確認ください。)

\*フタバへはそのまま使用できますが、サンワ又はKOの旧型受信器には極性が現在と違うものがあります。プロポ側の説明書と共によくご確認ください。

《図.4》



#### STEP.2 モーター（図4）

1) 付属の0.1mFモーターキャパシターを3ヶモーターに装着します。  
 英文の図を参考にして、プラスのモータータブからカンアース、マイナスのモータータブからカンアース、プラスとマイナスのモータータブどうしの3箇所ハンダ付けを行います。

2) GTXには、あらかじめ36Aのショッキードダイオードが内蔵されています。

ターン数の低いモーターを使用する場合は必ず新たに

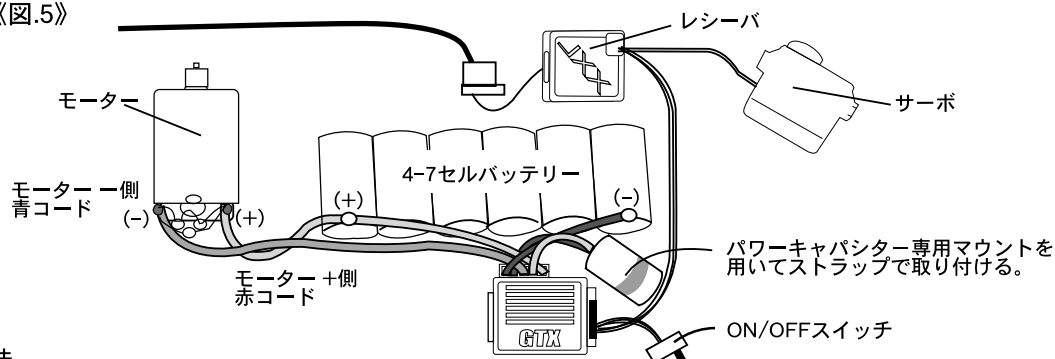
モーター側にショッキードダイオードを取り付けてください。（ブレーキ性能やモーターの出力をフルに引き出すことが出来ます。）

ショッキードダイオードの極性に注意し、ラインの入った方をプラス側に向けてそれぞれをハンダ付けします。

図4の様にモーターに装着する場合はノバック純正#979ショッキードダイオードをお勧め致します。

#1976や#1977のスーパーショッキードダイオードを使用する場合は、アンプの基盤に極性に注意してハンダ付けしてください。

《図.5》



## STEP.3 接続方法

GTX本体は大変高い性能を持っていますが、これをフルに引き出すには高性能コネクターや効率のよいハンダ付けを行わなければなりません。大電流で使用する場合はイーグル製品の2Pコネクターやヨーロピアンコネクターをお勧め致します。

アンプのパワーワイヤーは、レシーバーやアンテナからなるべく離れた位置に装着してください。

それぞれの配線は、なるべくシンプルに結束してください。(これは、誤動作を防ぐ為です。)

受信機のアンテナはモーターワイヤー、バッテリー、サーボからなるべく離れた位置にマウントし、短く切らずに立ちあげてください。

使用時にアンプの性能をベストに保つには、冷却効率を考える必要があります。GTXを装着する場合は通風のよい場所に装着してください。

パワーワイヤーは、ターミナルに直接ハンダ付けしてあります。RED(赤),BLUE(青),BLK(黒),のサインがケースにありますので極性に気を付けて正しく取り付けして下さい。バッテリーへの接続はアンプの赤コードをバッテリーのプラスへ黒コードをバッテリーのマイナスへつなぎます。ただし、ハンダを付ける時にはターミナルに対して加熱し過ぎに注意してください。

モーターへの接続はアンプの赤コードを直接モーターのプラスにつなぎ、アンプの青コードも同様にモーターのマイナスにつなぎます。

(もう一本、赤コードを用いて枝分かれする様に配線する場合は、Tまたは、Y型にハンダ付けし絶縁します。(セットアップの(英文)図6を参考に)

1.GTXの装着場所が決定したら付属の両面テープ等で固定します。(両面テープを貼る場所はアルコール等で油をふき取ってください。)

◎図5の様にレッドワイヤーを1本で配線する場合(本格的レース使用)

A.1本の赤コードをバッテリーのプラスとモーターのプラスにハンダ付けする様、その装着部分を4mmづつ被服を取り去ります。

B.図5を参考にハンダ付け位置を確認します。

C.この際、ワイヤーの被服を取り去った部分を縫っておきます。

D.それぞれの場所にハンダ付けをします

◎英文説明書の図6の様にレッドワイヤーを2本で配線する場合(一般的な使用)

A.もう一本、赤コードを用いて枝分かれする様に配線する場合は、Tまたは、Y型にハンダ付けし絶縁します。

B.赤い配線の一部でTまたは、Y型に分岐する様にその部分を4mmづつ被服を取り去ります。

C.この際、ワイヤーの被服を取り去った部分を縫っておきます。

D.その部分をハンダ付けをします。

E.収縮チューブまたは、絶縁テープなどでしっかりと絶縁します。

F-H.分岐したそれぞれのワイヤーの先端を4mmづつ被服を取り去りバッテリーとモーターのプラス側に接続します。

§コネクターを使用する場合も同様です。

2.上記要領でブルーワイヤー(モーターマイナス)とブラックワイヤー(バッテリーマイナス)を接続します。

## ●コネクター

バッテリーやモーターのコネクターは、高品質で抵抗値の少ない2Pタイプ(#948 2Pプラグ ¥380)のものをを用いて接続しトラブルの無い様にします。(逆接やショートはアンプにダメージを与えます。)

§また、バッテリー側にはメスのコネクター、アンプのインプット側にはオスのコネクター、アンプのアウトプット側にはメスのコネクター、モーター側にはオスのコネクターをそれぞれ取り付けてください。

## ●パワーワイヤー

別売で12GA,14GA,16GAの3種類のコードがありますので用途に合わせて交換して下さい。この時、高温ハンダは使わないでください。

## STEP.4

アンプを装着する場合は、シャーシ可動部にパワーワイヤー等が干渉しない様に注意してください。

パワーキャパシターはシャーシに付属のストラップで固定します。

パワーキャパシターは予めハンダ付けされています。これは、アンプの効率を引き上げる為のものです。

パワーキャパシターを取り付けないとアンプが壊れる事もあります。パワーキャパシターには、極性がありますので足の長い方をプラス(赤コード)、短い方をマイナス(黒コード)に付けてください。

※6Tから8Tの様な高出力モーターをご使用の場合は必ずGTXからパワーキャパシターまでのシリコンコードの長さを出る限り短くしてハンダし直してください。(極性が有ります。お気を付けてください。)

付属のC型プラスチックマウントを5Pハウジングにスライドさせて取り付け、

表面にオンオフ・スイッチを両面テープで貼り固定します。(図8)

## STEP.5 送信機設定

送信機のセットアップ

A).HIGH ATVまたはEPAは最大にセットしてください。

B).LOW ATV, EPAまたはATLは最大にセットしてください。

C).EXPONENTIALは0にセットしてください。

D).スロットルのリバース・スイッチはどちらの位置でも構いません。

E).スロットル・トリムはミドルポジションにセットしてください。

F).送信機側の電子トリガーの割合は前進70%ブレーキ30%でセットします。

G).送信機のトリガーは前進2/3、ブレーキ1/3でセットします。

送信機の切角確認方法

このステップは、最高のパフォーマンスを得るのに必要なもので、調整をしなくてもアンプは正常に働きます。

## STEP.6 初期設定

1).送信機のスイッチをオンにします。

2-3).GTXのボタンを押し続けたままでスイッチをオンにします。

4-5).レッドLEDの点灯を確認後、素早くボタンを離します。

6).送信機のスロットルをハイポイントに移動しグリーンLEDの点灯を確認します。

7).送信機のスロットルをブレーキエンド・ポイントに移動し、グリーンLEDの点滅を確認します。

8).送信機のスロットルをニュートラル・ポイントに移動し、レッドLEDの点灯を確認し完了です。

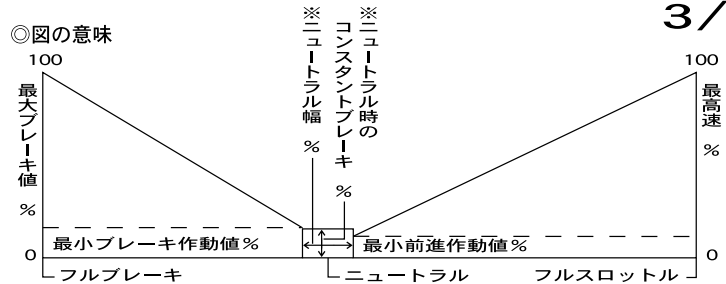
1から8の作業を連続的に行ってください。途中で一定以上の時間が経つと入力エラーとなる場合もあります。

# プロファイル・セレクション&ミニマム・ブレーキアジャスト

GTX  
3/4

## それぞれの意味

- Drive Frequency (kHz): 前進側の周波数
- Minimum Drive(0%): 最小前進作動値
- Drag Brake (0%): ニュートラル時の  
コンスタントブレーキ
- Brake Frequency (kHz): ブレーキ側の周波数
- Minimum Brake (0%): 最小ブレーキ作動値
- Dead band (0%): ニュートラル幅



注意：ステップ6以降は（ベーシックセットアップ以降は）、GTXはセットが完了して走行可能です。

それは、ファクトリーセットでGTXを制御している状態です。ユーザーセットアップは、新たにセットアップする必要があります。

ファクトリーセットプロファイル7の各設定値をカスタム選択モードで変更すると、設定したデータはプロファイル7に上書き保存されます。（1～6のプロファイル設定は変更できません。）

## ミニマム・ドラッグブレーキ調整

GTXは異なった2つのスタンダード・コンスタントブレーキまたは、ドラッグ・ブレーキ方法が選択出来ます。そして7つの異なったレベルのファクトリーセット・ブレーキも選択出来ます。なお、GTXは別にミニマムブレーキまたは、ドラッグブレーキを7つのプロファイルから選ぶことが出来ます。

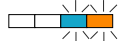
Min/Drag Brake Setting#:	1	2	3	4	5	6	7
Minimum Brake(%):	0	20	30	35	40	45	50



## ミニマム・ブレーキ（モード）

GTXを充電されたバッテリーに接続します。（送信機はオフ、またはオン）

- もし送信機をオフ状態でセットするならば、GTXをレシーバーから取り外してください。レース会場では、その他の送信機の電波障害を受ける可能性があるため、この方法が有効です。
- GTXのスイッチをオンにします。
- GTXのボタンを押し続けるとブルーLEDが点灯致します。
- ブルーLEDの点灯を確認したら、素早くボタンを離してください。するとブルーLEDの点滅回数でミニマム・ブレーキの選択場所が確認できます。
- 素早く再度ボタンを押すことによりミニマム・ブレーキ作動値（%）を変更することが出来ます。また、連続して何度か押すことでミニマム・ブレーキ作動値（%）を連続変更することも出来ます。ブルーの点滅の意味は1回が0%、2回が20%、3回が30%、4回が35%、5回が40%、6回が45%、7回が50%となっています。何もしない状態では現在選択されているモードをブルーLEDの点滅回数で数秒ごとに知らせます。
- 再度ボタンを一秒以上押し続けることで現在のモードを確定します。この時、4色のLEDが順番につきセット完了を知らせ、その後、レッドとグリーンのLEDが点灯し送信機の指示が入っていない事を示します。もしも、送信機が入った状態ならばレッドLEDのみが点灯します。



## ドラッグ・ブレーキ（モード）

GTXを充電されたバッテリーに接続します。（送信機はオフ、またはオン）

- もし送信機をオフ状態でセットするならば、GTXをレシーバーから取り外してください。レース会場では、その他の送信機の電波障害を受ける可能性があるため、この方法が有効です。
- GTXのスイッチをオンにします。
- GTXのボタンを押し続けるとブルーLEDが点灯し、次にオレンジLEDと共に点灯します。
- ブルーとオレンジLEDの点灯を確認したら、素早くボタンを離してください。するとブルーとオレンジLEDの点滅回数でドラッグブレーキの選択場所が確認できます。
- 素早く再度ボタンを押すことによりミニマム・ドラッグブレーキ作動値（%）を変更することが出来ます。また、連続して何度か押すことでミニマム・ドラッグブレーキ作動値（%）を連続変更することも出来ます。ブルーとオレンジLEDの点滅の意味は1回が0%、2回が20%、3回が30%、4回が35%、5回が40%、6回が45%、7回が50%となっています。何もしない状態では現在選択されているモードをブルーとオレンジLEDの点滅回数で数秒ごとに知らせます。再度ボタンを一秒以上押し続けることで現在のモードを確定致します。このとき、4色のLEDが順番につきセット完了を知らせ、その後、レッドとグリーンのLEDが点灯し送信機の指示が入っていない事を示します。もしも、レシーバーに正しく接続されて送信機からのシグナルを受けている状態ならば、3つのレッド、ブルー、オレンジのLEDが点灯してドラッグブレーキが入っている事を示します。（ただし、1回を選択した場合は、ドラッグ・ブレーキが解除となり、レッドLEDのみが点灯します。）注意：ドラッグブレーキ値が、ミニマムブレーキ値よりも高い場合には自動的にミニマムブレーキ値がドラッグブレーキ値と同じ値となります。

## スロットル・プロファイル（モード）

GTXを充電されたバッテリーに接続します。（送信機はオフ、またはオン）

- もし送信機をオフ状態でセットするならば、GTXをレシーバーから取り外してください。レース会場では、その他の送信機の電波障害を受ける可能性があるため、この方法が有効です。
- GTXのスイッチをオンにします。
- GTXのボタンを押し続けるとブルーLEDが点灯し、次にブルーとオレンジLEDが共に点灯し最後に4つのLEDが共に点灯します。
- 4つのLEDの点灯を確認したら、素早くボタンを離してください。すると4つのLEDの点滅回数でスロットル・プロファイルの選択場所が確認できます。
- 素早く再度ボタンを押すことによりスロットル・プロファイルを変更することが出来ます。また、連続して何度か押すことでスロットル・プロファイルを連続変更することも出来ます。4つのLEDの点滅の意味は1がアグレッシブで順に7まで段々とスムーズになって行きます。それぞれの設定値は英文のスロットルプロファイル（P.5）を参照ください。何もしない状態では約3秒後に現在選択されているモードを保存します。この時、7以外のプロファイルを選択しているとLEDが一度全て点き1つずつ消え完了を知らせ、その後、レッドとグリーンのLEDが点灯し送信機の指示が入っていない事を示します。もしも、送信機が入った状態ならばレッドLEDのみが点灯します。また、この時、7のプロファイルを選択しているとLEDが一度全て点灯し静止します。この時素早くボタンを押すことでカスタム選択・モードに入ります。

FILE:	AGGRESSIVE	SMOOTH					
PROFILE#:	1	2	3	4	5	6	7



FACTORY-INSTALLED PROFILES 1-7							
Throttle Profile #:	1	2	3	4	5	6	7
Drive Frequency (kHz)	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	7.5	11.0
Minimum Drive(%)	5	5	1	5	5	5	6
Brake Frequency (kHz)	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
Minimum Brake(%)	25	20	20	20	20	20	20
Dead Band(%)	4	4	4	4	4	4	4
Standard Brake act. value	7	7	4	7	7	7	4

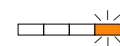
前進側の周波数

Setting # of (kHz):	1	2	3	4	5	6	7
Drive PWM Frequency (kHz):	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	7.5	11.0



最小前進作動値

Setting # of (kHz):	1	2	3	4	5
Minimum Drive(%):	2	5	8	8	12



ボタンを押し続けると、オレンジLEDが点灯し次のミニマムドライブ・モードになります。

オレンジLEDが点滅し始めたら素早くボタンを離してください。するとオレンジLEDの点滅回数でミニマムドライブの選択場所が確認できます。

素早く再度ボタンを押すことによりミニマム・ドライブ（%）を変更することが出来ます。また、連続して何度か押すことでミニマム・ドライブ（%）を連続変更することも出来ます。オレンジLEDの点滅の意味は1回が2%、2回が3%、3回が5%、4回が8%、5回が12%、となっています。

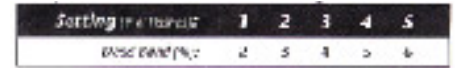
ボタンを押し続けるとレッドLEDが点灯し次のブレーキ周波数・モードになります。  
 レッドLEDが点灯し始めたら素早くボタンを離してください。するとレッドLEDの点滅回数でブレーキ周波数の  
 選択場所が確認できます。  
 素早く再度ボタンを押すことによりブレーキ周波数（％）を変更することが出来ます。  
 また、連続して何度か押すことでブレーキ周波数（％）を連続変更することも出来ます。  
 レッドLEDの点滅の意味は1がアグレッシブで順に5まで段々とスムーズになって行きます。  
 それぞれの設定値は英文のスロットルプロファイル（P.6 9のDrive PWM 周波数）を参照ください。

ブレーキ側の周波数



ボタンを押し続けるとグリーンとブルーLEDが点灯し次のデッドバンド・モードになります。  
 グリーンとブルーLEDが点灯し始めたら素早くボタンを離してください。するとグリーンとブルーLEDの点滅回数でデッドバンド  
 の選択場所が確認できます。  
 素早く再度ボタンを押すことによりデッドバンド（％）を変更することが出来ます。  
 また、連続して何度か押すことでデッドバンド（％）を連続変更することも出来ます。  
 グリーンとブルーLEDの点滅の意味は1回が2%,2回が3%,3回が4%,4回が5%,5回が6%と  
 なっています。

ニュートラル幅



ボタンを押し続けるとLEDがスクロール点灯しニュートラルに戻ります。  
 その後、レッドとグリーンLEDが点灯し送信機の指示が入っていない事を示します。  
 もしも、送信機が入った状態ならばレッドLEDのみが点灯します。  
 注意：上記プロセス中、操作しているLEDと次に選択するLEDが同時に点く場合がありますがこれは異常ではありません。

### カスタム選択・モードを独立して行いたい場合

- もし送信機をオフ状態でセットするならば、GTXをレーサーから取り外してください。  
 レース会場では、その他の送信機の電波障害を受ける可能性があるため、この方法が有効です。
- GTXのスイッチをオンにします。
- もし、プロファイル7を選択しているか分からない場合は、スロットル・プロファイル（モード）の確認方法でチェックしてください。
- セットボタンをダブルクリックする事でグリーンLEDが点滅し前進の周波数が選択できます。
- LEDの点滅の意味は1がアグレッシブで順に7まで段々とスムーズになって行きます。それぞれの設定値は英文の  
 スロットルプロファイル（P.6 5のDrive PWM 周波数）を参照ください。
- ボタンを押し続けるとオレンジLEDが点灯し次のミニマムドライブ・モードになります。
- オレンジLEDが点滅し始めたら素早くボタンを離してください。するとオレンジLEDの点滅回数でミニマムドライブの選択場所が確認できます。  
 素早く再度ボタンを押すことによりミニマム・ドライブ（％）を変更することが出来ます。  
 また、連続して何度か押すことでミニマム・ドライブ（％）を連続変更することも出来ます。  
 オレンジLEDの点滅の意味は1回が2%,2回が3%,3回が5%,4回が8%,5回が12%,となっています。
- ボタンを押し続けるとレッドLEDが点灯し次のブレーキ周波数・モードになります。
- レッドLEDが点灯し始めたら素早くボタンを離してください。するとレッドLEDの点滅回数でブレーキ周波数の選択場所が確認できます。  
 素早く再度ボタンを押すことによりブレーキ周波数（％）を変更することが出来ます。  
 また、連続して何度か押すことでブレーキ周波数（％）を連続変更することも出来ます。  
 レッドLEDの点滅の意味は1がアグレッシブで順に5まで段々とスムーズになって行きます。それぞれの設定値は英文の  
 スロットルプロファイル（P.6 9のDrive PWM 周波数）を参照ください。
- ボタンを押し続けるとグリーンとブルーLEDが点灯し次のデッドバンド・モードになります
- グリーンとブルーLEDが点灯し始めたら素早くボタンを離してください。するとグリーンとブルーLEDの点滅回数でデッドバンド  
 の選択場所が確認できます。  
 素早く再度ボタンを押すことによりデッドバンド（％）を変更することが出来ます。  
 また、連続して何度か押すことでデッドバンド（％）を連続変更することも出来ます。  
 グリーンとブルーLEDの点滅の意味は1回が2%,2回が3%,3回が4%,4回が5%,5回が6%,となっています
- ボタンを押し続けるとLEDがスクロール点灯しニュートラルに戻ります。  
 その後、レッドとグリーンLEDが点灯し送信機の指示が入っていない事を示します。  
 もしも、送信機が入った状態ならばレッドLEDのみが点灯します。  
 注意：上記プロセス中、操作しているLEDと次に選択するLEDが同時に点く場合がありますがこれは異常ではありません。

☆その他、ご質問等がございましたらイーグル・サービスカウンター 0532-61-1554までお気軽にお問い合わせ下さい。

☆修理サービスにつきましては、イーグル・サービスカウンターで行っていますのでお問い合わせ下さい。

☆製品保証につきましては、一部アメリカ国内保証と異なりますが、ほぼノバック保証に準じて処理させていただきます。  
 保証依頼の場合はディーラーステッカーが必要になりますので購入後必ずアンプの側面にはっておいて下さい。

☆ディーラーステッカー↓

〒440-0842  
 愛知県豊橋市岩屋町6-2-7 9  
 株式会社 イーグル模型  
 0532-61-1554  
 service11@eaglemodel.com